

企画指導担当

水産研究部 企画調整事業

金澤 健・田村勇司

事業の目的

農林水産研究指導センター水産研究部の企画調整機能を充実・強化するため、「企画調整」、「広報広聴」及び「研修」などに係る業務を行った。

1. 企画調整事業

水産研究部の管理担当、企画指導担当、資源増殖チーム、養殖環境チーム及び北部水産グループの資源増殖チーム、養殖環境チームの業務や予算等を調整し、組織の円滑な運営と調査・研究の効率的な推進を図った。

また、農林水産研究指導センター本部をはじめ、関連機関との連絡調整、情報交換等を行い、研究課題等を企画、立案を行った。

2. 広報広聴事業

各種のメディアを通じて、調査・研究結果を積極的に公表・伝達する広報活動と、漁業現場のニーズを的確に把握して業務に反映させるための広聴活動を行い、水産情報拠点としての機能の充実を図った。

3. 研修事業

他機関や団体等からの研修や視察に積極的に対応し、開かれた研究機関としての機能の強化を図った。

事業の方法

1. 企画調整事業

1) 大分県水産研究企画調整会議

漁業者ニーズへの迅速、的確な対応、効率的な調査・研究活動を推進して、本県水産業の振興発展を図るため、大分県水産研究企画調整会議設置要綱に基づき、会議を運営した。また、センター本部が主催する農林水産研究指導センター企画調整会議（メンバー：企画指導担当総括及び北部水産グループ資源増殖チームリーダー）及びセンター所属長会議（メンバー：部長、グループ長）に参加した。

2) 研究予算調整

限られた予算を有効に活用し、効率的な研究・開発を推進するため、水産研究部及び北部水産グループの研究予算等の調整と編成を行った。

3) 試験研究課題検討会

要望として出された試験研究課題について、行政職員、普及指導員及び漁協関係者から課題の必要性、普及方法等について必要な助言を得て検討を行った。

4) 大分県農林水産試験研究アドバイザー会議

本県水産業の振興発展に有益な試験研究を進めるため、大分県農林水産部試験研究実施要領並びに大分県農林水産試験研究アドバイザー設置要領に基づき、学識経験者等のアドバイザーを招集して、水産研究部アドバイザー会議を開催し、新規研究課題に関して専門分野の技術的アドバイス受けた。

2. 広報広聴事業

1) 広報

A. 研究発表会等

水産研究部の研究者の資質向上、情報交換を目的として、大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会（通称：三水試）を開催した。

B. 刊行物等

a) 事業報告書

刊行物投稿規約に基づき、水産研究部及び北部水産グループ分をまとめた事業報告書を作成し、ホームページで公開した。

b) 研究報告

刊行物投稿規約に基づき、大分県農林水産研究指導センター研究報告（水産研究部編）を編集、発行するため、原稿の募集を行った。

c) 広報紙 AQUA NEWS（アクアニュース）

広く県内外の水産関係者等に研究成果等の情報を発信するため、広報紙 AQUA NEWS（アクアニュース）を編集、発行した。

C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページ（アドレス：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>）及び北部水産グ

ループのホームページ（アドレス：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15091/>）において、水温情報、漁況海況予報、緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

研究員と水産業普及指導員との連携を強化し、漁業現場の情報や要望を研究課題に反映させるため、水産研究・普及連絡会議を開催した。

B. 県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議

水産研究部に対する漁協や市町村の要望や意見を聴取して研究課題に反映させるとともに、水産研究部の最新研究情報を伝達するため、県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議を開催した。

3. 研修事業(視察・研修受入)

開かれた研究機関としての役割を果たすために、視察、見学者への説明や案内等を行った。また、児童・生徒の学校関係者や生産者の研修や実習等に対応した。

2021年2月5日、J:COMホルトホール大分において、大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催し、水産研究部から6課題、北部水産グループから4課題、南部及び中部振興局水産班から各1課題の研究発表が行われた。また東部振興局地域創生班及びセンター本部から各1課題の業務概要の紹介が行われた(表2)。

B. 刊行物等

a) 事業報告書

水産研究部及び北部水産グループの平成31(令和元)年度の事業報告を編集、作成し、ホームページで公開した。

b) 研究報告

大分県農林水産研究指導センター研究報告(水産研究部編)第8号の原稿を募集した。5課題の応募があり、査読中である。

c) 広報紙 AQUA NEWS (アクアニュース)

本年度は、7月に第51号、1月に第52号を編集、発行し、ホームページで公開するとともに、県庁情報センターへ配布した。

C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページにおいて、水温情報、漁況海況速報、予報並びに緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

新型コロナウイルス感染防止対策により中止したが、会議資料を送付して、メール等による内容確認及び質疑応答を行った。普及指導員から出された要望等については、各チーム・担当において対応した。

B. 県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議

2020年7月7日に豊後水道北部海区(大分市、臼杵市及び津久見市)、8月20日に東国東・別府湾海区(国東市、姫島村、杵築市、日出町、別府市及び大分市)、8月24日に豊前海区(中津市、宇佐市及び豊後高田市)、8月26日に豊後水道南部海区(佐伯市)を対象とした県漁協各地区漁業運営委員長及び市町村水産主務課長会議をそれぞれ開催した。

会議において報告した研究情報について表3に示した。

3. 研修事業

1) 視察・研修受入

生徒・児童等の学校関係者や生産者を中心に、視察、見学及び実地の研修や実習等に対応した。受入実績を表4に示した。

事業の結果

1. 企画調整事業

1) 大分県水産研究企画調整会議

今年度は会議を7回開催し、各部所での行事、予算及び研究課題等の連絡調整を行い、水産研究部としての方針を決定した。

2) 研究予算調整

センター本部策定の予算編成方針及び水産研究部が定めた予算編成方針に基づき、各担当・チームから要求があった試験研究及び施設整備等の次年度当初予算の取りまとめ、編成を行い、本年度補正予算編成にも対応した。

3) 大分県農林水産試験研究アドバイザー会議

2020年12月から2021年3月の間に、大分県農林水産試験研究アドバイザー会議を開催し、重要研究課題について専門分野の技術的アドバイス等を受けた(表1-1、表1-2、表1-3)。なお、新型コロナウイルス感染防止対策のため、3課題はメール会議、1課題はWEB会議によって開催した。

2. 広報広聴事業

1) 広報

A. 研究発表会等

表 1-1 大分県農林水産研究(水産研究部)アドバイザー会議委員名簿(令和2年4月1日～9月30日)

所 属	役 職	氏 名	備 考
国立大学法人 九州大学大学院農学研究院 生命機能科学分野 生物機能分子化学講座 水族生化学分野	副 研 究 院 長	中尾 実樹	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所 海産無脊椎動物研究センター	セ ン タ ー 長	太田 健吾	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 生物生産学科生物環境講座 藻場生態系保全研究室	教 授	村瀬 昇	学識経験者

表 1-2 大分県農林水産研究(水産研究部)アドバイザー会議委員名簿(令和2年10月1日～令和3年3月31日)

所 属	役 職	氏 名	備 考
国立大学法人 愛媛大学沿岸環境科学研究センター 生態系解析部門 魚類感染症学研究室	准 教 授	北村 真一	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 生産技術部	副 部 長	太田 健吾	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 育種部	育 種 部 長	照屋 和久	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 育種部	育 種 基 礎 グ ル ー プ 長	岡本 裕之	学識経験者
国立大学法人 九州大学大学院農学研究院 資源生物科学部門 水産生物環境学研究室	准 教 授	島崎 洋平	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 生物生産学科生物環境講座 藻場生態系保全研究室	教 授	村瀬 昇	学識経験者

表 1-3 大分県農林水産研究(水産研究部)アドバイザー会議に付託した研究課題

研 究 課 題 名	担 当 チ ャ ーム	研 究 期 間	備 考
魚病疾病に対するワクチン等の効果を高める技術の開発	水産研究部養殖環境チーム	令和2～4年度	
高級魚キジハタの種苗生産技術開発	北部水産グループ資源増殖チーム	令和2～4年度	メール会議
ヒラメ耐病性家系の選抜育種	水産研究部資源増殖チーム	令和3～5年度	メール会議
IoT等を活用した有害・有毒プランクトン対策	水産研究部養殖環境チーム	令和3～5年度	WEB会議
ヒジキ『完全養殖技術』の開発	北部水産グループ養殖環境チーム	令和3～5年度	メール会議

表2 大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会の発表課題

発表課題名	所属(チーム)	発表者
サルファ剤-ピリミジン系抗菌剤の配合剤がブリに与える影響	養殖環境	研究員 村瀬 直哉
ヒラメのエドワジエラ症ワクチン用免疫補助剤の検討	養殖環境	研究員 吉井 啓亮
クルマエビ養殖場における遺伝子配列解析を用いたPAV感染実態の把握	養殖環境	主任研究員 山田 英俊
エノハ受精卵のミズカビ防除試験	北部養殖環境	研究員 吉岡 宗祐
ヒオウギガイ天然採苗技術の普及に向けた取組	南部振興局	普及員 山本宗一郎
天然採苗によるマガキ稚貝の付着状況と環境要因との関係	北部資源増殖	研究員 森本 遼平
陸上水槽および漁港内におけるマダコ卵のふ化試験	北部資源増殖	研究員 崎山 和昭
大分県海域における2019年のタチウオ資源解析結果と2020年の漁模様	資源増殖	研究員 横山 純一
2019年の大分県豊後水道におけるクロサバフグの大量出現	資源増殖	研究員 竹尻 浩平
大分川におけるアユ資源の有効利用手法の開発	北部養殖環境	研究員 西 陽平
臼杵地区におけるクルマエビの放流方法の見直しと標識放流	中部振興局	普及員 三代 和樹
大分県内のヒラメ養殖業者 経営分析	資源増殖	研究員 森田 将伍
地域創生部の業務概要のご紹介 ー水産業との関わりも含めてー	東部振興局	技 師 安部 洋平
農林水産研究指導センター業務概要について	センター本部	副主幹 原 朋之

表3 県漁協 地区漁業運営委員長・市町村水産担当課長会議等の開催実績及び研究取組状況の報告内容

開催日(場所)	対象地区	研究取組課題名/報告者
2020年7月7日 (大分県臼杵総合庁舎)	豊後水道北部海区	「計量魚群探知機を用いた新しい資源調査」 水産研究部資源増殖チーム 研究員 竹尻 浩平
		「豊後水道北部海域におけるマアジについて」 水産研究部資源増殖チーム 研究員 中尾 拓貴
2020年8月20日 (大分県国東総合庁舎)	東国東・別府湾海区	「新標識トラモアタグを活用したクルマエビ標識放流調査」 北部水産グループ資源増殖チーム 研究員 崎山 和昭
		「ヒジキ完全養殖技術の開発」 北部水産グループ養殖環境チーム 主幹研究員(チームリーダー) 徳丸 泰久
2020年8月24日 (北部水産グループ)	豊前海区	「新標識トラモアタグを活用したクルマエビ標識放流調査」 北部水産グループ資源増殖チーム 研究員 崎山 和昭
		「ヒジキ完全養殖技術の開発」 北部水産グループ養殖環境チーム 主幹研究員(チームリーダー) 徳丸 泰久
2020年8月26日 (県漁協佐伯支店)	豊後水道南部海区	「ICT技術を用いた赤潮監視の取組」 水産研究部養殖環境チーム 研究員 井口 大輝
		「ヒラメに対する緑色LED照射試験」 水産研究部養殖環境チーム 主任研究員 都留 久美子

表4 視察等受入れ実績

対象者	水産研究部		北部水産グループ	
	件数	受入人数	件数	受入人数
生産者			3	11
大学生	1	4		
小・中・高校生	4	92	1	5
その他	4	27		
合計	9	123	4	16

(注)文書等により依頼があったもので、人数は概数である